

旭川、吉井川、笹ヶ瀬川など、広域的なつながりを持つ水の景観は、岡山の景観構造の軸となり、骨格を形成するものです。また市域を縦横に流れる用水路等は、市民に身近な親水空間でもあります。この水の景観を守り、育て、際立たせることにより、岡山市の都市のイメージを創りあげていきます。

【景観形成の目標と基本方向】

水の景観を保全・活用することで、景観構造の明確化・イメージづくりに取り組む

岡山市の骨格となる河川の景観は、自然の姿を適切に保全することで、景観構造の明確化・イメージづくりに取り組みます。また、河川景観や身近に流れる用水路等を活かし、親水空間やアプローチ動線などを整備することで、都市のアメニティを高めます。

【水の景観形成の取組み】

景観に配慮した親水性のある水辺空間の整備

- ・河川へのアプローチ動線などの水辺に近づける空間整備、水辺空間を活かした歩行者ネットワークや並木の整備などにより、親水性・アメニティの向上を図る。
- ・市民やNPO等の参加による環境保全活動や、多自然型護岸等の設置によって、水辺の自然環境の再生を促進する。



親水性のある旭川の水辺空間



並木が整備された住宅地の用水路



市民による清掃活動

河川の地域特性に応じた景観整備の推進

- ・山間部では周囲の緑との調和を図り、山並みと河川が一体となった自然景観の形成を進める。
- ・市街地では、河川は自然を呼び込む装置としてとらえ、堤防の緑化やアプローチ動線の整備等、河川と連続したアメニティ豊かな景観形成に取り組む。
- ・河口部では、樋門や常夜灯など歴史的資源が豊富にあり、これらを活かした自然と歴史・文化の一体となった空間づくりを目指す。



整備された都心部の旭川



憩いの空間である吉井川



歴史的遺構が残る旭川

水辺景観への配慮

- ・堤防の緑化による、緑と水が一体となった快適で潤いのある景観形成を進める。
- ・建築物等は、自然環境と調和した形態・意匠、色彩等適切に誘導する。あわせて、対岸からの眺望や水辺へのアプローチ等に配慮した配置、形態等の誘導を行う。特に良好な眺望が得られる場所など、積極的に視点場として整備を図る。



旭川河畔の水と緑の景観



西川沿いの緑豊かな空間



良好な眺望景観の百間川下流

【水系別河川の整備状況と整備方針】

旭川水系

- ・旭川は、岡山市の都市構造の主要な骨格をなす水と緑の軸線であり、都心に自然を取り込む重要な要素である。現在百間川分流部の整備を進めており、その後は岡山城・後楽園周辺～東西中島周辺地区での整備が予定されている。治水整備はもとより親水型護岸整備や、旭川河畔への歩行者動線を水辺空間に引き込み、河岸緑地と一体的な利用を図ることで、市民に身近な憩いと賑わいの空間づくりを目指す。また、河川沿いには詩人、画家などの記念碑、歴史的資源などが多く点在しており、これらを回遊ネットワーク化し、遊歩道、視点場整備により河川の自然、歴史・文化の一体となった河川空間づくりを目指す。

吉井川水系

- ・吉井川は、昔から水運で栄え、往時の歴史を偲ばせる遺構と身近な自然が数多く残っている。西大寺新地地区では、失われつつあった砂浜を再生し、親水性とシジミなどの水産資源の生息場所を整備、維持しており、今後は、吉井川沿いに残る歴史的遺構や自然環境に配慮しながら地域特性に応じた河川の空間づくりを目指す。

笹ヶ瀬川水系

- ・笹ヶ瀬川は、多くの野鳥や水生生物が生息する自然色豊かな河川であり、田益、横井上地区などでは地域に残された自然環境に配慮し、多自然型水辺空間を整備しており、今後も改修の際には、堤防の緑化やジョギング・サイクリングコースなど堤防上の河川管理道を活用し、周囲の景観や自然に調和するような河川空間づくりを目指す。

それぞれの河川が持つ様々な機能を活かして、身近な遊び場、教育の場として利用し、水の景観にふれあえる機会を設けることにより、市民が親しみやすい河川づくりを目指す。

